

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22592551

研究課題名（和文）保健師のネットワーク技術獲得のためのプリセプターと住民活用による教育ツール開発

研究課題名（英文）Development of Network (NW) Practice Acquisition among Public Health Nurses (PHNs) and the Educational Tools used by Residents and Preceptors.

研究代表者

越田 美穂子 (KOSHIDA MIHOKO)

香川大学・医学部・准教授

研究者番号：30346639

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、保健師のネットワーク（NW）技術獲得のためのプリセプターと住民活用による教育ツールを開発することである。新人期に担当地区でネットワーク形成経験を持つ保健師3名と、その地域の住民7名を対象に、半構成的面接を行い分析した。結果、入職1年間は週に半日ほど情報収集や住民との関係づくり、家庭訪問等を目的に、地区に行く仕組みをOJTに取り入れ、得られた気づきや疑問などを記録し、またNW形成技術項目に照らして保健師や住民プリセプターからフィードバックをもらうという内容が抽出された。

研究成果の概要（英文）：

Purpose of this research was to develop Network (NW) Practice Acquisition among public health nurses and the educational tools used by residents and preceptors. The research was started with having the semi-constitutive interview with 3 public health nurses and 7 residents in the region, and tried to analyze the research content. The nurses experienced NW formation in a community each of them had worked as a novice nurse. As a result, some suggestions were given by them. The suggestions are as follows;

- 1) Trying to collect information and build relationship with residents half a day a week for one year after becoming new employees.
- 2) Introducing a system of visiting regions to OJT for the purpose of making a home visit and others, and writing down details about questions and the things they noticed.
- 3) Getting the feedback from the nurses and the resident preceptors according to items of NW formation practice.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：地域看護学

科研費の分科・細目：看護学、地域・老年看護学

キーワード：ネットワーク・プリセプター・模擬住民（患者）・教育ツール開発・人材育成

## 1. 研究開始当初の背景

近年、地域における関係性の希薄化や価値観の多様化を背景に、家族・地域・職場の関係性や規範的な力が減弱し、社会における関係性再構築の必要性が注目されている<sup>1,2)</sup>。このような時代背景に伴い、地域における「ネットワーク」すなわち人と人との「つながり」の持つ力が注目されている。わが国の医療保健福祉政策においても、地域での「共助」の必要性が見直され、住民や専門職・組織との関係作りを基盤としたネットワーク形成が、地域における健康課題の解決の方略として重要視されつつある<sup>1)</sup>。

従来行政保健師（以下保健師）は、地域全体を対象に日常の活動の中で住民や関係組織とネットワークを形成し、協働しながら地域の健康課題を解決してきた。このような活動は、平成 25 年 4 月に出された、厚労省通知「地域における保健師の保健活動について」<sup>3)</sup>においても、地区担当制の推進に努めるよう県知事に向け通知されたことから、重要な実践技術として位置づけられており、保健師にはその役割が今後もさらに期待されている。

保健師が地域でネットワークを形成する技術は、コミュニケーションを中心とした技術であるため、その重要性は高いにも関わらず言語化しにくく、他者からも見えにくい専門技術といわれてきた<sup>4)</sup>。またそれ故にこの技術は、保健師養成機関での教育よりも OJT により学ぶことが多く、保健師活動においては自明のものとして継承されてきた。しかしながら最近ではこのような技術が中堅保健師以降に継承されていないことが危惧されており<sup>5)</sup>、今後保健師の専門技術として継承・評価するためにも、効果的な教育プログラムの開発は急務である。

一方、先行研究においては、新任・中堅保健師を対象にした教育プログラム評価や指導者の意識、組織体制を評価したもの<sup>6)</sup>、変革期に対応する保健師の専門技能獲得に関する研究<sup>7)</sup>があるが、これらはいずれも保健師機能の全般を明らかにしたものであり、ネットワーク形成の実践技術に焦点化したものは見当たらない。さらに、先般大学での保健師教育を必修とする現行制度の見直しがなされ、平成 23 年度から学部での選択制や修士課程への移行が可能になった。このことから、より高度で効果的な実践技術教育の必要性が高まっており、そのプログラム開発は喫緊の課題といえる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、保健師のネットワーク技術獲得のためのプリセプターと住民活用による教育ツールを開発することである。この教育ツールを開発することにより、行政保健師の専門技術の効果的な獲得が可能になり、そのことによって、高度化する保健師基礎教育に活用可能な教育プログラムを提示できる。さらに住民と協働で新任保健師の現任教育に関与することで、行政保健師の質が向上すると共に、行政と地域住民間の関係性再構築や共助の力をお互いに支援する事につながり、結果、健康課題を解決する推進力として地域における健康づくり支援やソーシャルキャピタルの構築に貢献できると考える。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究対象

対象者は、中核市である A 市に所属し、受け持ち地域を担当する過程で、住民や関係機関とのネットワークを形成した経験のある保健師 3 名と、対象となった保健師が担当地域で主にキーパーソン（ネットワーク形成過程でかかわりの深い方で、性別、年齢は問わない）とした住民 2~3 名とした。保健師に関しては所属機関から該当者について推薦を受け、住民については、対象となった保健師が選定した。なお、保健師 3 名はいずれも新人期に初めて担当した地区を対象とした。

### (2) 本研究における用語の説明

#### ①行政保健師のネットワーク形成技術

「行政保健師が日常の地区活動の中で、キーパーソンとなる住民の方や関係機関との間に、地域の健康に関する課題を解決していくためのつながりをつくり、お互いに深い信頼関係や支援・連携（協働）関係をつくり、発展させ、維持していくこと」

#### ②キーパーソン

「保健師が地域でネットワークを作る過程で、担当地域で保健師と深く関わる役職やボランティア等の住民のこと」

### (3) データ収集および分析方法

データの収集は、1~2 時間程度の半構成的面接及び、属性等確認のための調査票記入により行った。インタビューは IC レコーダーに録音し、逐語録に起こしたものを分析データとした。

主なインタビュー内容は、保健師に対しては、①担当地区におけるネットワークの形成

過程、②形成過程でうまくいったこと、いかなかったこと、またその理由と支援内容、③形成過程における住民の関与及びその効果と課題、④住民をプリセプターとして活用することについての方法、であり、住民に対しては、①保健師という職業について知っていること 担当保健師との地域での関わり等、②住民として新人保健師のネットワーク形成に関与した形成過程でうまくいったこと、いかなかったこと、またその理由、③住民の関与について、その効果と課題であった。

データ収集期間は、2012年、11~12月に行い、作成した逐語録は希望した対象者に返送し、内容の確認を行った。

分析は、データをそれぞれ一つの意味のまとまりをもつ塊ごとに分け、それを何度もテーマに照らして読み、同様の意味内容を持つデータを抽出し、コード化した。各コードを再度データと共に読み込み、研究目的に照らして同様のコードを整理し、抽象度を上げてカテゴリー化を行った。これらの分析過程においては、面接時の印象やキーワードなどを記録したメモなども参考に検討した。

その後、保健師と住民の双方のカテゴリーを、①保健師のNW形成への動機づけの要因、②保健師が担当地域でのNW形成過程における住民の支援、③それによる具体的効果、④開発プログラム内容への提案、の視点から分析・検討を行った。

#### (4) 倫理的配慮

対象者が所属する機関の倫理委員会の承認を得た後、関連部署の責任者に研究協力の同意を得た。対象者には、研究の目的と意義、参加協力は自由意志であり、不利益は生じないこと、個人情報保護とデータ管理方法等を文書と口頭で説明し、同意が得られた場合は、同意書に署名を得た。

### 4. 研究成果

#### (1) 対象者の属性 (表1)

対象となった保健師3名は、平均年齢28.7歳、平均経験年数4.0年であった。また、住民7名は、平均年齢65.1歳、平均居住年数35.7年であった。インタビュー時間は、1時間~1時間45分であった。

保健師				住民			
年齢	性別	経験年数	該当地区担当年数	年齢	性別	居住年数	現在の役割
A	25	女性	3	A-a	79	女性	40 A地区自治会老人会会長
				A-b	75	女性	12 A地区保健委員会会長
B	26	女性	3	B-a	52	女性	20 B地区コミュニティセンター長
				B-b	69	女性	48 B地区保健委員会会長
				B-c	59	女性	34 B地区保健委員会副会長
C	35	女性	6	C-a	77	男性	77 C地区保健委員会会長
				C-b	45	女性	19 C地区コミュニティセンター長

#### (2) データ分析結果

分析の結果、データから抽出した「コード」

数は、保健師データからは84、住民データからは98コードであり、そこから精製した【カテゴリー】数は、保健師、22カテゴリー、住民18カテゴリーであった。それらを、①保健師のNW形成への動機づけの要因、②保健師が担当地域でのNW形成過程における住民の支援、③それによる具体的効果、④開発プログラム内容への提案、の4つの視点で分析・検討した結果を以下に示した。

#### ① 保健師のNW形成への動機づけの要因

保健師は入職当初、出身地でもなく全く知った人のいない地区には、【土地勘がない担当地区への戸惑い】を感じ、また役員会でも話の流れについていけず、【住民の中に容易には入れない】と感じていた。また地区住民と関わる中で、【行政と住民の意識のずれに戸惑う】ことや、住民や組織の【「あそこは大変」という「しがらみ」を知らない難しさ】からトラブルを起こすなどの経験をしていた。さらに【NWのイメージが曖昧で具体がわからない】と感じていた。しかしこれらの1年目の経験を通し、2年目には住民に話を聞かないと地区のことはわからず、保健師の勉強はしていても地区については初心者だと気づき、【担当地区をもっと知り、関係を作りたい】というNW形成への動機づけへと繋がっていた。一方、住民は市の行政改革により保健師が駐在制でなくなったことなどから【保健師との距離が遠くなった】と感じていた。

#### ② 担当地域でのNW形成過程で住民が果たした役割

保健師は、担当地域でのNW形成過程で住民が果たした役割として、行事や役員会の場、また通りすがりの住民にも【住民のリーダーが保健師を紹介】してくれることで、【住民の後ろ盾を得る】ことができていた。また、住民から【地区の掟を学ぶ】、【地区の価値観・文化・特性を学ぶ】、【地区でつなげる人を教えてもらう】ことを通して、地域を学んでいた。また、【聞かなくても住民から必要な情報を教えてくれ】たり、学ぶ住民は一人ではなく、【さまざまな住民から情報を得】るなどの支援を得ていた。

一方、住民も同様に気になる人や人間関係などの【必要な情報を保健師に提供し】、イベントの時には目立つところに配置するなど【住民に保健師を紹介し、PR】する配慮をしていた。また他の地区との違いを教えるなど、【地域や住民の特性を教える】サポートをしたり、【集まりに来て住民とたわいのない話をする】、【地域の会に引っ張り出してなじみをつくる】という役割を果たしていた。また、【新人であることへの配慮】から保健師に親しく声をかけることや、頑張っている

芽を摘まないよう見守ることで、【地区の保健師を大事に育て】ていた。

#### ③住民からの NW 形成への支援による具体的効果

上記の支援を受け、保健師は地域で住民に声をかけられるなど、【住民に顔を覚えてもらい】、住民の個人的なことを教えてもらい【住民との関係が深まる】ことで、【NW の広がり深まりを感じ、動きやすくなる】と感じていた。また住民も【言えばすぐに動いてくれ】、来ないと住民が淋しがらうくらい【素直で地域になじんでいる】保健師に対し、【成長を感じる喜び】がある一方、新人は勉強が忙しく声をかけると悪いなど、【新人の立場への遠慮】も感じていた。

#### ④開発プログラム内容への提案

保健師データからは、【1年目から住民に話を聞くプログラム】があると住民や組織を知ることができ、そのためには【コミュニティーセンター(地域)に定期的に行く】ことを提案していた。また、だれか決まった住民をプリセプターとして位置付けるのではなく、【複数の住民がプリセプターになる】ほうが、意見や価値観などが偏らなくていいと考えていた。さらにこのプログラムにおいては、【NW 形成の具体的な技術項目が必要】であると同時に、【毎日の気づきや情報を記録する】ことが重要であると考えていた。一方、【3年たってやっと地域がわかる】ことから、最低でも3年は同じ地区を担当したいと希望していた。

住民からも同様に、【週1回くらいコミュニティーセンター(地域)に来てもらい声かけする】ことが必要であり、その時には保健師が【土地の言葉で親しみやすい雰囲気】を持ち、【用がなくても世間話をする】ことや、高齢者の食事会などで【食事をするなどして顔なじみになる】ことで、【色々な状況や相談などを話せる】と考えていた。また、地区の担当期間については、時間の短い嘱託職員や担当保健師がすぐに交代するのではなく、【なるべく長く担当してもらおう】ことを希望していた。

### (3) 考察

#### ①住民が新人保健師の担当地区の NW 形成でプリセプターを担う意義

本研究の結果から、保健師にとって、担当地区の住民は NW 形成の支援するプリセプターとなる可能性があることが示唆された。保健師は、最初は地区のすべてがわからない中で、住民との関わりを通し、地区を知り、住民を知り、その歴史や文化、価値観を知っていく。その過程の相互作用により、保健師は住民を後ろ盾として頼りにし、住民も保健師を育てたいと思う関係が醸成されていた。

しかし、住民は最初から保健師を育てよう意識して情報提供などの支援を行っていたわけではなく、さらに、新人や経験者といった区別もなく、単に「自分の地区担当の保健師」に地区のことを知ってもらい、これから地域で活躍してほしいといった思いから、自然に支援しているという状況が見られた。いずれにせよ、保健師特に新人が初めて担当した地区で、その住民から育てようという意思を持って関わってもらい、その結果住民に受け入れられ、育ててもらい、頼りにされたという経験は、今後、地域に積極的に出ていく姿勢にも影響すると思われる。

一方、今回このインタビューを受けることで、住民には保健師を育成する役割もあるのだと気付いたと感想を述べる住民もいた。このことは、逆の面からいえば、住民が少しでも意識して保健師のプリセプター役割を担うことが、保健師という役割の理解とその拡大につながる効果もあるのではないかと考える。住民が保健師を身近に感じられず、保健師も事務作業の増大から地域に出ることがなく、認知度が低下していると言われている現状においては、住民を教育資源として育て、活用することで、相互の理解を深めることはもちろん、地域のソーシャルキャピタルの充実や<sup>3)</sup>、住民の社会貢献への効力感を高めることにもつながると考える。

#### ②新人教育プログラムへの導入と今後の課題

本プログラム内容として、新人1年間を対象に可能であれば週に半日ほど担当地区の情報収集や住民との関係づくり、家庭訪問等を目的に、地区コミュニティーセンターに行く仕組みを意図してOJTに取り入れ、その時の情報から得られた気づきや疑問などを記録し、またNW形成技術項目<sup>8)</sup>に照らして保健師や住民プリセプターからフィードバックをもらうというプログラムが考えられる。

今回対象とした保健師の所属するA市では、このプログラムを実施する基盤となる新人保健師教育プログラムの開発を研究者と共同で行っており<sup>9-11)</sup>、平成22年度は対象自治体と協働で教育プログラムとそのツールを開発・検討し、平成23年度からはそのプログラムを新人行政保健師とプリセプターを対象に試行実施している<sup>12-13)</sup>。また県の新人研修の一環として2年目には担当地区の地域看護診断をもとに健康課題を抽出するという研修も行っており<sup>15)</sup>、その準備としても意義があると考えられる。

今後の課題としては、この1年目のプログラムにこの研究成果から得られた担当地区でのNW形成にかかわるプログラムを具体的にどう効果的に導入していくのか、その際にプリセプターとなる住民の役割の意識づけ

と研修、また評価をどのように行っていくかが検討項目であると考え。さらに今回は目的の趣旨から外れるため結果から除外したが、職場のプリセプターや師長、先輩保健師の支援の重要性もデータとして得られている。このことから住民と双方の支援を組み合わせたプログラムの検討もあわせて今後の重要な課題である。

#### 《引用文献》

- 1)内閣府 平成 19 年度版 国民生活白書 2007
- 2)近隣の社会環境が住民の健康へ及ぼす影響 ソーシャルキャピタル研究を巡る 公衆衛生 7(7) 565-572 2008
- 3)平成 25 年 4 月 19 日付 厚生労働省健康局長通知「地域における保健師の保健活動について」
- 4)麻原きよみ：コミュニティを対象とした保健活動で求められるもの 保健師ジャーナル 63(5) 402-406 2007
- 5)厚生労働省。「保健師のベストプラクティスの明確化とその推進方策に関する検討会報告書」、2007.
- 6)佐伯和子他、行政機関に働く保健師の専門職務遂行能力の測定用具の開発. 日本地域看護学会誌 2003 ; 6(1) : 32-39.
- 7)岡本玲子他、変革期に対応する保健師の新たな専門技能獲得に関する研究、厚生科研報告書、2007. 5.
- 8)Mihoko Koshida、 and Takae Morita、 : Japanese community/public health nurses ' network establishment practices: Scale development and testing. Nursing and Health Sciences、 15 (1)、22-30、2013、 Wiley Publishing Asia Pty Ltd.
- 9)越田美穂子、永井則子、山田小織、他：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの開発(その 1)、第 70 回日本公衆衛生学会総会 2011.
- 10)森寿々子、香西真由美、越田美穂子、他：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの開発(その 2)、第 70 回日本公衆衛生学会総会 2011.
- 11)山田小織、越田美穂子、永井則子、他：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの開発(その 3)、第 70 回日本公衆衛生学会総会 2011.
- 12)越田美穂子、永井則子、山田小織、他：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの実施と評価 その 1、第 71 回日本公衆衛生学会総会、2012.
- 13)山田小織、越田美穂子、森寿々子、他：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの実施と評価

その 2、第 71 回日本公衆衛生学会総会、2012.

- 14)朝倉理映、森寿々子、越田美穂子、他：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの実施と評価 その 3、第 71 回日本公衆衛生学会総会、2012.
- 15)松原佳代子、佐野昌美、合田佳代子：香川県における体系的な新任保健師の人材育成の評価、四国公衆衛生誌 58 (1)、2013.

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 2 件)

- ①越田美穂子、守田孝恵：地域看護活動における『ネットワーク』概念の文献的検討、地域環境福祉研究、 Vol.13、(1) P 1-16、2010.
- ②Mihoko Koshida、 and Takae Morita、 : Japanese community/public health nurses ' network establishment practices: Scale development and testing. Nursing and Health Sciences、 15 (1)、22-30、2013、 Wiley Publishing Asia Pty Ltd.

[学会発表] (計 8 件)

- ①越田美穂子、守田孝恵、山崎秀夫、檀原三七子、山田小織：行政で働く保健師の地域におけるネットワーク形成実践尺度の開発とその関連要因、第 69 回日本公衆衛生学会総会 2010.
- ②越田美穂子、諏訪亜希子、大西美智恵、松井妙子、篠岡有雅：住民の力量形成によるソーシャルキャピタルの構築 -A 県 B 町における認知症サポーター養成事業からの検討一、第 32 回地域保健師学術研修会 2010.
- ③越田美穂子、永井則子、大西美智恵、山田小織、森寿々子、香西真由美、池内明子、矢敷信子：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの開発(その 1)、第 70 回日本公衆衛生学会総会 2011.
- ④森寿々子、香西真由美、池内明子、矢敷信子、吉井由美子、松原文子、越田美穂子、永井則子、大西美智恵、山田小織：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの開発(その 2)、第 70 回日本公衆衛生学会総会 2011.
- ⑤山田小織、越田美穂子、永井則子、大西美智恵、森寿々子、香西真由美、池内明子、矢敷信子：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの開発(その 3)、第 70 回日本公衆衛生学会総会 2011.
- ⑥越田美穂子、大西美智恵、永井則子、山田小織、森寿々子、香西真由美、池内明子、川尻幸代、朝倉理映：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの実施と評価 その 1、第 71 回日本公衆衛生

学会総会、2012.

⑦山田小織、越田美穂子、大西美智恵、永井則子、森寿々子、香西真由美、池内明子、川尻幸代、朝倉理映：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの実施と評価 その2、第71回日本公衆衛生学会総会、2012.

⑧朝倉理映、森寿々子、石山美香、川尻幸代、香西真由美、池内明子、松原文子、吉井由美子、藤本久枝、久保典子、越田美穂子、大西美智恵、永井則子、山田小織：高松市における保健師技術の習得に焦点化した新人研修プログラムの実施と評価 その3、第71回日本公衆衛生学会総会、2012.

他、平成25年度に学会発表1件実施予定

[図書] (計1件)

守田孝恵、檀原三七子、越田美穂子、他著  
展開図でわかる「個」から「地域」へ広げる保健師活動 クオリティケア 2013

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

越田 美穂子 (KOSHIDA MIHOKO)  
香川大学・医学部・准教授  
研究者番号：30346639

### (2) 研究分担者

大西 美智恵 (ONISHI MICHIE)  
香川大学・医学部・教授  
研究者番号：30223895

山田 小織 (YAMADA SAORI)  
福岡大学・医学部・講師  
研究者番号：60369080